

貨客混載 期待も運び



タクシー新事業旭川で始動

変わる物流

「工夫重ね運行維持を」

旭川市内で1日に始まった乗り合いタクシーによる貨客混載事業は、タクシー会社の運転手が宅配業者の委託を受けて戸別配達をする道内初の取り組みだ。乗り合いタクシーの赤字削減を目指す旭川中央ハイヤー（旭川）と、ドライバー不足に悩む佐川急便の間で狙いが一致し、関係者からの期待も大きい。（五十嵐俊介）

予約制の乗り合いタクシーはJR東旭川駅周辺と東旭川町米飯（ペーパン）地区の約20キロを走行。2013年から中央ハイヤーが始めたが、年々利用者は減少し赤字が続く。そこで、事業で配達手数料を得て赤字削減を図ることにした。配達の対象は同地区の約200戸。同駅から車で5分程度の佐川急便旭川営業所、乗り合いタクシーが荷物を受け取った後、通常ルートで運行。道中の乗車待ちや空車時間を利用し、各自宅に荷物を届ける。

この日、同営業所で行われた出発式で、中央ハイヤーの松井康裕北海道支店長は「ドライバーの負担を軽減し、余力のあるトラックを他の地区の配達に回せる」と述べ、北海道運輸局の佐々木求旭川運輸支局長は「この第一歩を大きく育て、北海道の物流や交通を支える手段にしたい」と語った。貨客混載は道北で、バス会社が名寄市や十勝市、天塩町などで行っている。

1の柏葉健一社長は「輸送のあり方が変わる日だと認識している」とあいさつした。その後、乗客定員13人のタクシーが委託された荷物5個を積んで出発。東旭川町豊田では、佐川急便のジャンパーを着込んだ運転手の佐藤路幸さん（58）が民家を訪ねて荷物を渡した。受け取った農家の「階層孝子さん（65）は「この地区は高齢化が進み、乗り合いタクシーはなくてはならない。工夫を重ねて維持して」と期待を話した。



佐川急便のジャンパーを着た旭川中央ハイヤーの運転手（右）から荷物を受け取る市民（綿山国敏撮影）



東旭川町米飯地区を走る荷物を積んだ乗り合いタクシー

宅配兼務タクシー始動

変わる物流



【旭川】乗り合いタクシーで宅配荷物を運ぶ「貨客混載」事業が1日、旭川市内で始まった。旭川中央ハイヤー（旭川）が、宅配大手佐川急便の旭川営業所から荷物を引き受け、同市東旭川町の個人宅に戸別配達する。北海道運輸局によると、タクシー会社による貨客混載は道内初。

中央ハイヤーは、路線バス廃止に伴い2013年10月から東旭川町の農村地帯で乗り合いタクシーを運行しているが、赤字が続いている。事業では、同社が午前中に預かった宅配荷物を乗車予約のない時間帯にタクシーで個人宅に届け、佐川急便から配達手数料を得る。佐川急便は人手不足に悩むドライバーの負担軽減につなげる。

佐川急便旭川営業所で1日行われた出発式で、中央ハイヤーの柏葉健一社長は「インフラを最大限生かすことで、北海道の現状を変えたい」とあいさつ。運転手がタクシーに荷物を積み込み、配達に出発した。

貨客混載は、バス会社が既に上川、十勝管内などの路線バスで実施している。